

2期生会

◆幹事 — 柚木 丈夫

二期生のセンチメンタルジャーニー防大ホームカミングデー参加

平成十三年三月十八日、四十五期生の卒業式にご案内をいただき、防大同窓会によるホームカミングデーが行われた。前年の一期生に引き続き、今回は二期生が案内を受け、当日は家族を合わせて約三百人の二期生一家が懐かしの小原台上に大集合し、互いに久闊を叙し、母校への思いを新たにした。また、その前夜及び当夜は、横須賀のあちこちで二期生の班会、クラブ会などの懇親会が開かれ、昔に変わらぬ大声が町に響いた。

ホームカミングデー準備のことなど

前年の一期生のホームカミングデー(以下HCGと略記)当日、私ども二期生の役員数名が参考のため、行事にオブザーバー参加させていただいた。北は北海道、南は沖縄から集まった一期生の皆さんが、互いに時間の経つのも忘れて談笑しておられる様子を拝見して感銘を受け、この催しを来年も是非続けていただき、二期生自体としても中味の濃いイベントにしたいと思い、早速、二期生会役員会で実行要領の検討を始めたことだった。

二期生の多くが、この平成十二年度をもつて満六十五才を迎えて第二の人生を終え、これから夫婦共々悠々自適（？）の生活に入ろうとする時期である。この時期こそ、青春の一時を共に過ごした小原台に集まり、その後縁を得た伴侶共々、我々の人生の原点ともなった往時に思いを馳せ、自ら選んだ生涯への思いを新たにする貴重な機会だろうと考えたものである。防大及び同窓会には申し訳ないが、この機会を二期生として大いに利用させてもらおうというのが実は本音でもあった。

二期生は、毎年十一月に東京で二期生の総会兼懇親会を実施している。しかし、今回の平成十二年度例会については、十一月を三月に延期して防大HCDに合わせて実施し、東京近辺に限らず、全国から出来るだけ多くの同期生とそのご夫人方に集まってもらおうと考えた。そのため同期生会としては、早い時期（九月）にHCDの趣旨説明を含めた予告案内を全国会員に発出し、参加予定者を募った。その結果、十二月末時点での参加予定者は三〇八名（内家族一二九名）に達した。参加計画の内容は、卒業式・観閲式の陪

席、校内ツアー、同期生会総会・懇親会の三本柱とすることで、防大及び同窓会にご協力をお願いした。日にちが近づき、防大当局の当日の時程・細部計画が煮詰まってくるにつれ、色々と実行上の問題点も明らかになってきたが、それぞれに前向きに打開の途を工夫していただき感謝している。特に、同窓会小原台支部の皆さんには細部にわたりご協力ご支援を賜り心から感謝申し上げる次第である。

晴天に恵まれ二期生大集合

当日は、朝方、小雨のぱらつくはつきりしない天候であったが、観閲式の前は嘘のように晴れ上がり、観閲飛行も整齐と行われ、参加者全員の集合写真も好条件で撮影することが出来た。二期生一同の日頃の心掛けの良さの結実と、自らほくそ笑んだ次第である。

当日の出席者は、結果的には二期生本人一六七名を含む二九八名となった。二期生現存会員三二四名の内の過半数の参加である。中には、遠くタイ国から、この日のために駆けつけてくれたK君夫妻の例もある。また、既に車椅子の生活になっっているO君を何としてでもこの行事

に参加させたいとの奥さんの熱意で、車椅子担送の介助を含め、一家八人総出でご参加いただいた例もある。また、H・K・O未亡人三人を含め奥様方が一〇二名もご参加いただいたことも嬉しいことであった。またお孫さんを含め三世代の一家挙げて参加のM君などは、家庭内での同君のステータスがうかがい知れ、微笑ましい限りであった。

卒業生の帽子投げと雄叫びに感激

卒業式陪席では、有事法制整備を強調する森総理の訓示が力強かった。新時代の軍人の道を説く来賓代表山本卓真氏の祝辞も感銘深かった。また、卒業証書受領に登壇する学生の情報工学、システム工学、地球科学などといった我々の時代にはなかった専攻の多様さ、留学生、女子学生の多さに、時代の流れを痛感させられた。最後の防大卒業式名物の帽子投げと学生の雄叫びを目の当たりにしては、四十数年もの後輩学生の若さを、うらやましく、また頼もしく実感したことがあった。

洗練された観閲行進に感あり

観閲式に陪席した。我々の頃の砂埃のグラウンドとは様変わりして、整備された芝生とアンツーカーの赤色が目に鮮やかである。陸海空の制服に着替えた卒業生の緊張した表情に、往時の我々の思い出が重なり合う。宣誓を受ける陸海空各幕僚長がいずれも防大卒業の先輩、観閲飛行の陸海空航空部隊の編隊長も全て防大卒業生であることに、防大と陸海空自衛隊の長い歴史を改めて痛感した。

在校生の観閲行進では、やはり我々の時代になかった指揮官学生の指揮刀が目を惹いた。紺の制服によく似合う。とりわけ、指揮刀を帯びた女子学生長の凛々しさが目にまぶしい。ただ、余計な所感を一言。防大学生の観閲行進はなかなか洗練されている。大変整然と上手だとは思いますが、今一つ力強さが感じられないのはどうしてだろう。年寄りの繰り言ではあるが、関係者にご一考をお願いしたいもの。

観閲式終了後、式場のメインスタンドを借りて、HCD参加者の記念写真を撮影した。約三百名の集合写真ではあるが

なかなか良く撮れており、天眼鏡で同期生いずれ劣らぬ年寄り振りを改めて確認し、憮然とさせられた。撮影を担当していただいた元防大総務課の久保田氏に改めて御礼申しあげる。

懇親会で我々の原点・小原台を再確認

二期生会の総会・懇親会は、学生会館四階ホールを借りて行われた。年次総会もそこそこに懇親会に移り、卒業以来初めて顔を合わせた人、早くに自衛隊を離れて久し振りに顔を見せた人などもあり、四十三年前の昔に帰って、時間の経つのも忘れて積もる話が弾んだ。久里浜時代の珍談奇談、小原台早創の頃の武勇談、陸海空自衛隊勤務のあちこちの思い出、第二の職場での様々、更には最近のエブリーサンデーの自慢など、話題は尽きる事がなかった。そして結局、話は又、防大四年間の思い出のあれこれに戻って来るのである。まさしく、我々の人生の原点は小原台にあるということであろうか。

この間、西原学校長、このHCDの生みの親の松本前校長、阿部同窓会長にも来ていただき、ご挨拶を頂戴した。西原

校長には、席上、参会者を代表して五十君二期生会会長から、心ばかりの御礼の印しを贈呈した。

この懇親会のケータリングサービスは、昔懐かしい横須賀中央駅前「お太幸」にお願いした。候補数社を役員会で検討の結果、同社を選んだが、同社には我々の趣旨をよく理解してもらい、会場準備や料理・飲物サービス等に、行き届いたサービスをしていた。参会者の同期生とのご夫人方にも、十二分の満足をしてもらったことが何よりである。

センチメンタルジャーニーの校内ツアー

校内ツアーは、まとまったツアーの間がとれそうもないことから、同窓会小原台支部を煩わして「校内ガイドマップ」の作成・配布をお願いし、参加者が空き時間に自由に見学してもらうことにした。懇親会終了後から夕方遅くまで、新装成った本館、人文学館、時計塔、学生舎、武道場、二期生寄贈の吉田茂揮毫碑などのあちこちを、ガイドマップ片手に三々五々、家族を案内しながら楽しそうに散策する二期生の姿が見られた。

そして夜、横須賀の町は、家族共々の二次会を楽しむ二期生で賑わった。